

令和7年度 八軒北小学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：27019

「学ぶ力」	
実態	課題
<p>これまでの 成果</p> <p>◇全国学力・学習状況調査の児童質問の結果から、「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」子どもの割合が全国より高い水準にあることが分かる。</p> <p>◇子どもが考えをもったり伝えたりする教材化や教師の手立てを研究してきたことにより、自分の考えをもとうとする素地や話し合う活動の意義を理解している子どもが増えている。</p>	<p>課題</p> <p>◇札幌市の共通指標から、「自分の意見を進んで発言しようとしている」子どもの割合が、学年が上がるにつれて減少傾向にある。</p> <p>◇友達の意見を聞くよさを感じたり自分の考えをもとうとしたりするが、自分の考えを進んで発表することにつながらない子どもが高学年になるにつれて増えていく実態が読み取れる。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題</p> <p>◇札幌市の共通指標の「人の役に立ててうれしいと感じることがある」において、どの学年でも肯定的な回答の割合が90%近くに達している。一つ下の学年へ伝統を受け継ぐ活動を続けてきていることや、年間の節目で「ありがとうカード」を贈り合ってきていることが社会的承認を生み、子どもの充実感と自己肯定感を高めていると考える。引き続き、自分に自信をもてるような場や価値付けが重要となる。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

他者とつながり合うことのよさを知り、新たな価値をつくりだしていく力

取組	AAR サイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自主的な活動の充実
	<p>◇研究副主題「自ら課題に働きかけ、思いや考えを実現できる授業」の実現</p> <p>→意図された導入や単元構成によって、課題に向かう意欲や問題意識を生む。これにより、<u>子どもが自ら動き出すイントロダクション</u>を授業に組み込む。</p> <p>→教材化や教師の手立てにより、<u>子どもが思いや考えをもとうとする姿を引き出す</u>。</p> <p>→<u>個別探究や協働探究など子どもの活動時間の保障</u>。</p> 	<p>◇よりよい学級・学年にするための活動の充実</p> <p>→子どもの思いや願いが生きる係活動の実施。</p> <p>→子どもが中心となり、学年で協働的に活動する場の設定。</p> <p>◇「自分たちで計画を立て、行動できるような子ども」の育成</p> <p>→各行事への参加の仕方の模索。</p> <p>→委員会・クラブ等で、<u>活動を作りだす場の保障</u>。</p>

〈本プログラムの実行に向けて〉

